令和６年度　山口大学教職大学院ニューズレター

学燈

Gakutou

Vol.26

今回は現職院生の原籍校での様子や、３コース（学校経営コース、教育実践開発コース、特別支援教育コース）が交流する座談会を実施したことについて紹介したいと思います。

まず、教職大学院は「理論と実践の往還」をテーマに、大学での学びを活かし、原籍校でも活動しています。今回は、学校経営コース２年生２人の原籍校での様子をお伝えします。

学校経営コース２年　谷貞佑（たにさだすけ）院生（美祢市立淳美小学校）

谷院生は、『子どもを「教職員化」する学校づくりーエージェンシーを発揮するプロジェクト型教育の実践ー』を研究題目として、子どもたちが自ら教育活動を企画・運営し主体的に学ぶ力を育むことを目的に実践研究を進めています。「教職員化」とは、子どもが教職員と同様の視点に立って学び、教育活動の企画を行ったり、協議や意思決定に参画したりするなどして、自分たちにできる役割を拡げたり、運営を担ったりすることです。

具体的には、「淳美っ子未来プロジェクト会議（JMP）」という全校縦割り班による話合い活動を行い、子どもたちが学校行事や教育の方向性を話し合い、主体的に意見を出し合う機会を設けています。特に高学年がファシリテーターとして議論をリードし、異なる学年の意見をまとめる活動に重点を置いて進めています。子どもたちが授業や行事の計画・運営に参画することでリーダーシップを育み、well-beingの実現につなげる試みをしています。

このような実践研究を進めている谷院生に密着取材し、淳美小学校の教職員の方々やPTA会長さんにインタビューを行いました。次の５つの内容について、語っていただきました。

① 学校の変容　② あなたの変容　③ 谷院生の変容　④ 教職大学院もしくは谷院生に対する要望　⑤ おもしろエピソード

①本校の課題として自己肯定感・有用感が低いということがありました。「どうせ…」というような。そこを変えるために縦割り班単位で全校で取り組む「JMP」というプロジェクトを立ち上げました。子どもたちが主体的に取り組み、「やれた！」という自信を付けたいと思って。その活動を一番後押ししてくださっているのが谷先生です。成果が全国学力・学習状況調査の結果にも実際に表れてきていますし、子どもの姿からも感じますね。

④谷先生のように、原籍校の課題を意識して、管理職や先生方と相談して解決する意識をもっていらっしゃると、より効果が期待できると思います。

伊藤（いとう） 弓恵（ゆみえ） 校長

長谷川（はせがわ） 裕子（ひろこ） 教諭

①私が赴任して来た頃は、自分の学年のことしかわからないことが多かったです。教職員も視野が広がり、子どもたちもJMPの活動を通して、絆が深まっているのを感じます。それまでも一緒に遊ぶのは遊んでいましたが、今は低学年でも自分の思いを伝えて、みんなで学校を作っていこうという雰囲気がありますね。

②③色々な学校に行かれて見聞きされた実践を、ご自身の考えも踏まえて話してくださいます。それが、自分の力というか授業のアイディアにつながっていますね。あとは、谷先生が子どもや地域の方の意見を聞きながら、リアルタイムにまとめていくファシリテートの方法が、すごく勉強になっています。大学院で実践されているんでしょうね。

①②JMP活動を通して、子どもたちには責任感が育ってきたように思います。活動の企画を任されて、自分たちで考えたり、話し合ったり…もちろん6年生がメインなんですけど、どの学年でも自分たちがやることと思ってやっているって感じが見えるかな。その子どもたちが話し合うところを大人も見学して、子どもたちの活動をこういうふうに仕組むことができるんだなって思いましたね。

④大学院に行かれてから…若干、サッカーから遠ざかっている感じがします。子どもたちがもっと一緒にサッカーしたいと寂しがっていますね（笑）。そういうふうに、みんなに慕われているので、早く美祢でいい学校を作っていただきたいですね！

松岡（まつおか） 稔（みのる） PTA会長

野間（のま） 誓子（せいこ） 教頭

①来年度統合するということもあり、子どもたちも気持ちが盛り上がっていますが、それを後押ししているのがJMPです。地域の方にもその様子を見ていただきなから、一緒に考えるスタイルを作られたので、実りある話し合いが実現しました。自分たちが企画する場が与えられて、それを先生や大人がアシストして実現するという自己実現の経験を積み重ね、自己肯定感の高まりが感じられます。

③元からよく動かれる方ではありましたが、大学院に行かれて学校全体や教育活動全体を見通して関わられています。学校の環境整備面も含めて、お願いする前に取り組まれていますね。最近は、畑仕事にも熱心に取り組まれていますよ(笑)。谷先生の気遣いは職員室のいい緩衝材にもなっています。穏やかな話しぶりや雑談で場を和ませたり、もっとこうしたらいいというアドバイスをされたり、組織づくりを実践されています。

サッカー愛がすごい、信頼できる、というような、谷院生が子どもや同僚の先生から慕われている内容ばかりでした。淳美小の先生方には、唐突なインタビュー企画にも関わらず温かく迎えていただきました。それも、谷院生の日頃の取り組みや関わり方があるからだと感じました。

淳美小のみなさん、ご協力ありがとうございました

学校経営コース２年　宮内（みやうち） 秀 一郎（しゅういちろう）院生（光市立浅江小学校）

宮内院生の研究題目は「組織開発と人材育成を通した小中一貫教育の推進ー中期を軸にした学園生徒指導体制の構築とつながる指標の活用ー」です。生徒指導に関わる組織開発における組織力の向上、また、人材育成指標の活用を通した小中一貫教育の推進に力を入れています。特に、教職員の人材育成に力を入れており、人材育成指標の作成や、既存の組織である中学校生徒指導委員会に生徒指導主任や小学校高学年を担当する教員が参画する「小中合同生徒指導委員会」を立ち上げました。

「小中合同生徒指導委員会」を軸に小・中学校の情報共有・共通理解・協働実践が図られ、児童生徒の確かな学びと育ちにつながっています。また、人材育成指標と自己目標シートを関連させることで、新規採用教員や若手教員のステージアップ（成長）を図っています。

そんな宮内院生は、浅江小学校にどのような影響を与えているでしょうか。

浅江小学校叶拓也（かのうたくや）教諭にインタビューしました！（生徒指導主任と地域連携担当を兼任）

Q　宮内先生は浅江小ではどんな感じですか?

A　頼れる存在で、いてくださるだけですごく安心することができます。

Q　宮内先生の存在で浅江小が変わったと感じることはありますか？

A　はい、山ほどありますね。その中でも、特に大学院での学びや最新の教育情報を教職員に共有してくださることがとてもありがたいです。やはり、現場でずっと働いていると、経験や感覚で考えてしまいがちになりますが、理論の部分の大切さも気づかせてくれます。宮内先生が教えてくださったことを受けて、「次はこうしよう」と思うことは多いですね。それは自分だけではなく、浅江小 の先生方も同じことを感じていると思います。

Q　宮内先生は人材育成の研究もされています。特に若手教員の変容は感じられますか？

A　はい。人材育成指標を作成していただき、若手教員もその指標と自分を照らし合わせながら実践することができています。そうすることで、「自分はこんな風にレベルアップしたらいいんだな」とか「こんな自分になりたいな」と明確な目標をもつことができます。やる気に満ち溢れていますね！

Q　最後に生徒指導主任として、心がけていることは何ですか？

A　生徒指導主任がいなくても、全体指導しなくても、学校全体で生徒指導が機能することを目指しています。

Q　それも宮内先生の教えですか？

A　いえ、これは自分のモットーです（笑）。

そして、浅江小学校兼坂幸雄（かねさかゆきお）校長先生にもインタビューしました！

Q　大学院に行かれている宮内先生の存在は、浅江小にどのような影響を及ぼしていますか？

A　さまざまな面で貢献してくれています。特に人材育成の面ですね。人材育成指標を作成して、若手教員も自己の成長を自分ごととして考えています。管理職が語るのではなく、教諭が語るというのがとても効果があると感じます。これは人材育成に限らず、教諭の立場で我々管理職にも多くの気づきを与えてくれています。管理職と教諭をつなぐ重要な存在ですね。大学院での学びを活かし、先生方にさまざまなことを発信してくれています。

また、この日は兼坂校長先生のお話から多くの学びを得ることができました。その内容の１つを紹介します！

25%の法則　できたことへの価値づけだけでなく、やろうとしていることへの価値づけをする。

25%の段階で、声をかけることが、勇気となり、原動力となり、エネルギーとなる。

浅江小学校のみなさん、ご協力ありがとうございました。

理論と実践の架け橋　～教職大学院生が語る学びの活用～

現在「学校実習」という形で学校現場に携わっている教育実践開発コースの学生４名（２年生１名、１年生３名）及び特別支援教育コースの学生２名（２年生１名、１年生１名）に現職院生１名を加えた計７名で座談会を実施しました。テーマは「**教職大学院で学んだことが実習校でどう活かされているか**」です。１年生は実習校での経験が浅いため「どう活かされているか」よりも「実習校での経験と教職大学院での学びがどう結びついているか」という視点なのに対し、２年生は実習校での具体的な経験に基づいた知見と視座でした。内容を簡潔にまとめたものを紹介します。

〇生徒指導・危機管理について

教職大学院で履修した生徒指導及び危機管理に関する授業内容が、実習校における児童生徒への実践的対応に有効に活用されている。行事等で教員の目が届かない場面がないよう事故や問題行動の事前防止に努め、学校全体を俯瞰的に捉える視点の醸成につながっている。また、生徒のプライバシーに関わる事柄への直接的な介入は控えつつも、日常的な生徒とのコミュニケーションにより信頼関係を構築し、生徒の様子や変化をしっかり観察するとともに、気になる点があれば当然担当教員に報告・相談するなど、教職員との緊密な連携を行っていくことで、潜在的な問題の未然防止や早期発見に取り組んでいる。

〇情報交換・信頼関係構築について

生徒指導や危機管理にも通じるが、些細なことでも情報交換や情報共有を行っている。特に特別支援学校での児童生徒の観察や情報の共有は非常に重要度が高いため積極的に行うようにしている。また、そのことで実習校の教員から信頼を得ていると感じる。

〇その他

・教職大学院にいる現職院生にも相談できる環境で、教員採用試験についてのことや日々の学校実習についてアドバイスがもらえる。

・「教育相談・特別支援教育の理論と実践」で学んだ児童生徒への共感的理解を深めるために、より多くの子どもに対して積極的傾聴やポジティブな声かけを行う機会をもつようにする。